



4本の登り梁が、互いに噛み合うラメラ架構として自立することで、柱のない空間を実現した住宅。その架構を現しにして、建築の構成のダイナミズムを隠蔽せずに、物を築く「初源的な情動」を住環境に残すことが意図された。

写真右／施工中は単管の櫓を組んで、梁を支えている。  
写真左／竣工後。  
4本の梁が噛み合い、櫓の支えがなくとも安定する。

## 母の家

2013年

写真提供／MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO